

今日は、低気圧が発達しながら日本のはるか東へ進み、高気圧が西日本に張り出してくる見込みです。西高東低の気圧配置は、次第に緩んでくるでしょう。

このため、関東甲信地方は晴れ時々曇りまたは晴れ後曇りでしょう。長野県北部や関東地方北部の山沿いでは、はじめ雨の降るところがあるでしょう。

明日は、気圧の谷が日本付近に接近してくる見込みです。

このため、関東甲信地方は曇り後雨でしょう。

## 【 土日のお天気 】

	05日(Sat)		06日(Sun)	
	天気	最高/最低	天気	最高/最低
札幌	*	2/ - 2	//	9/ 2
秋田		11/ 0	//	11/ 4
仙台		11/ 4	/	14/ 6
宇都宮		12/ 4	//	15/ 7
東京		13/ 8	//	17/ 11
横浜		12/ 8	//	17/ 11
長野		8/ 1	//	9/ 2
静岡		12/ 9	//	18/ 9
名古屋		13/ 7	//	13/ 7
新潟		14/ 4	//	13/ 7
金沢		15/ 6		12/ 7
大阪	//	14/ 7		12/ 8
神戸	//	15/ 8		12/ 7
広島	/	14/ 7	//	12/ 5
松江		14/ 4		10/ 4
高松	//	17/ 6	//	12/ 6
高知		19/ 7		14/ 6
福岡	/	13/ 7	//	11/ 6
鹿児島	/	18/ 11	//	15/ 8
那覇		21/ 19		21/ 17

( : 晴れ, : くもり, : 雨, \*: 雪 : のち, // : 時々, / : 一時)

## 【 お天気モード 】

「 ドバイ・ショックよりも中国ショック 」 2009年11月30日の日記より

「ドバイ・ショックで第2の金融不安が起きるかもしれない状況は衆院選挙時には想定していなかった」と内閣府の発表がありました。

ドバイ・ショックは 言わば「砂上の楼閣が明らかになっただけ」のことで、想定できないシナリオとは言えないのではないかと。近隣のアラブ首長国連邦に、石油があふれていても、ドバイにはほぼ一滴の油もとれないことは、ちょっと調査すれば、すぐにわかることです。そこに、天を仰ぐばかりの摩天楼を当て込んだのは、マネーゲームそのもの。そのことは、このブログでも何度か指摘してきました。

すなわち、「想定できないケースではなく、今この時期に来るとは思いたくなかった」というところが、この情報の正しい捉えかたでしょう。「アラブの千夜一夜物語は今日に始まったことではない」ので、想定外というのは、未熟な見通しとするとともに情報分析力の甘さとしか思えません。

さて、本題に入ります。

農業新聞の記事によると、いよいよ、**世界的な食糧争奪戦**の兆しははっきりと、当事者の報告として出てきました。

中国の食料自給95%の体制が5年後に崩れる可能性があることを28日、中国農業大学経済学院の武教授が、都内で開かれた北東アジア農業農村発展国際シンポジウムで警告しました。

我が国の食料自給率40%は異常であることを、政府も国民も実感をもっていない。このことが最悪の状態です。よって、中国が95%と言っても、「あら、随分あるなー」と想うことでしょう。これが、危険なことなのです。現在、中国は日本をはじめ、多くの国々の食料供給基地となっています。我が国も、安全性に疑問符を投げかけていても、昨今は、またぞろ、安価なことを理由に、中国からの輸入がじわじわと増加に転じています。冷凍ギョーザ事件は本の1年前のことです。熱しやすく冷めやすい国民性に、経済的な余裕のなさが追い打ち状態。

実は、中国の95%という数字は、この「最大の食料輸出国である中国から、食料が最早輸入できなくなるということを示している」のです。それが、早くも3年後ということですが、実態は前倒しになるということも1つのシナリオとして想定しておくべきでしょう。

この警告には、天候異変などによる生産量の激減は語られていません。そういうケースをシナリオに入れていないことは十二分に推測されます。気象の面から見ると、昨今は、中国の農産物の大生産地において、干ばつや冷害が毎年どこかで発生しており、ほぼ常襲化していると見ておくことが必要でしょう。既に、余剰食料のパイは少なくなっているニュースが相次いでいます。

そして、今年のインドでは、天候の影響で米が大不良となり、世界的に米価格が上昇しています。生産量に余裕のある、ベトナムなどが国内備蓄の必要性もあって、そう簡単には、輸出に応じようとしていません。ある面、国際的米相場における米価の上昇を見て、輸出で利益を狙っているのは当たり前のことです。

中国の95%の自給率のもたらす影響は、我が国をはじめ、世界的な食糧争奪戦が兆しているとするべきでしょう。中国国内においては、湾岸大都市群の経済発展に伴い、ますます食料のニーズは高まっており、豊富な元マネーで国内外の食料を買い抑えることは必至でしょう。資金面からも、日本の商社の買い負けが予想されます。

要は、マネーゲームの天罰ともいえるドバイ・ショックよりも、命をつなぐ食糧が絶たれる恐れを警告していると見るべきでしょう。石油は何とか我慢することはできても、三度の食事を我慢せよとは、今のグルメにな

なってしまった日本人には耐えられないことだと指摘したい。

今日のキャッチフレーズは 「**油を売っていないで米を作ろう**」

## 省エネ推進ソリューション )

水道水は貴重な資源です 「[トータル節水システム](#)」

CO2 削減は直ぐに取り組みができる 「[省電力システム](#)」

火災に気をつけましょう 「[消棒シリーズ](#)」

## 【 e健康生活 】

「[茶文化を世界へ発信](#)」 2009 年 11 月 27 日の日記より

全国の茶産地と茶業関係者らで、茶の消費拡大などを考える「**全国茶サミット**」が26日 奈良市内で始まりました。

## 【 概要 】

1. 初日は、全国の茶産地の市町村長らが集まり、日本茶の現状や課題を話し合った。
2. リーフ茶の消費が低迷する中、茶の機能性を広くアピールするとともに、「**環境に配慮した茶業の発展を推進する**」などを宣言。

## 【 市町村長会議 】

1. 埼玉県所沢市や静岡県川根本町、福岡県星野村など32市町村が参加。
2. 「茶を急須にいれて飲む習慣が薄れた」「相場の下落」など、厳しい現状を指摘。
3. 一方、病気予防など健康への効果につて科学的なデータが確認され、「安全で安心な茶づくりが国内外から再評価を得る機械」であることを確認した。

## 【 主催者のアピール 】

主催者である奈良市の仲川市長は、「**厳しい時だからこそ、産地間で連携して知恵を出す**」と強調した。

1. 茶の文化を世界へ発信し、茶の風習を次世代へ継承する。
2. 茶の健康性や効用について広くPRする。
3. 環境に配慮した茶業の発展を推進する。
4. 来年は、九州で全国茶サミットを開く。

( **農業新聞**11月27日より編集 )

## 【感想】

茶は深い文化との認識があります。それはとても素晴らしい形体だと思いますが、次世代への継承を考えるならば、若者が取り組みやすい文化も必要でしょう。

絶対量の茶業の発展と茶文化の発展は別物と考えなくては、宣言倒れになる恐れがあります。例えば、機能性や健康への効果なら、誰にでも関心がありますが、茶道などの茶文化は、このせわしない現代にアピールするためには、一工夫も二工夫も必要でしょう。

ビジネスとして生業としての茶業と精神的または日本の伝統的文化としての茶文化は同時に語れないと考えます。いずれ、若者も年を経るにつれ、文化の方へ傾斜してゆく人も出てくるでしょうが、若い時分には若い茶の味わいがあるべきでしょう。

あのオバマ大統領が、来日したアジア外交のスピーチの冒頭は、抹茶アイスのエピソードでした。茶業関係者にとっては、とてもラッキーな話だったと思います。茶にはさまざまな味わいがあるということも、もの見事に演出していただいたことになりす。

シブイ話にはシブイ人しか集まらない。消費者は財布のヒモがかたくなって出し渋っているだけではないでしょう。アイデアであり、新たな茶の食し方が求められていると考えます。

## 【 WISからのお知らせ 】

\*\*\*\*\* 天気で元気！ \*\*\*\*\*

**世界初 「ソリューションする気象会社」**

防災メールなら **地震番**

<http://www.wis-x.co.jp/jishinban/jishinban.html>

**トータル節水システム** ( **経費節減効果NO1** )

[http://www.wis-x.co.jp/kachiaru/kachiaru\\_shouhin.htm#echoj](http://www.wis-x.co.jp/kachiaru/kachiaru_shouhin.htm#echoj)

たのしい競馬に **「馬場コンディション情報」**

<http://babacondition.sblo.jp/>

減災とセキュリティ **「ミスター防災」**

<http://mrbosai.sblo.jp/>

取れたて安全・安心農産物 **「直売所NOW」**

<http://chokubaisho.sblo.jp/>

天気と健康のお話 **「ウェザー&ビューティ」**

<http://weatherandbeauty.sblo.jp/>

\* \* \* \* \*